

# 小学校社会科第6学年の学習におけるさきたま史跡の博物館の役割

向井 隆盛

## 1 はじめに

小学校においては、平成27年度4月から、平成26年度に採択された教科書が使用されている。この機会に、小学校社会科の授業における主たる教材である教科書に掲載された学習内容を分析し、さきたま史跡の博物館で行っている体験学習について考察することが必要であると考える。本稿では、特に当館の調査研究内容と関わりの深い第6学年の社会科の学習内容と、これまでに行ってきた当館の実践について考察する。また、埼玉県の子供たちが学習する際に、当館が果たすべき役割について述べる。

## 2 小学校社会科の学習内容とさきたま史跡の博物館の関わり

さきたま史跡の博物館は、国指定史跡埼玉古墳群を中心とする県内の考古資料の収集保管・調査研究・展示公開・普及啓発を使命としている。小学校社会科における第6学年の学習内容では、（1）ア「狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ、国の形成に関する考え方などに关心をもつこと。」との関わりが深い。第6学年の社会科の学習では、古墳の規模や出土品、古墳の分布等を調べ、豪族の出現と大和政権による国土の統一の様子を学ぶ。子供たちは、教科書の記述から、豪族は「強い力をもったむらの指導者」であると理解している。しかし、具体的にどのくらいの力をもっていたのか、そもそも指導者とはどんな人なのかということを理解するには、教科書の資料だけで十分とは言えない。そこで、博物館が重要な役割を果たす。大きな前方後円墳の周囲を歩いてその大きさを実感したり、博物館の展示室に陳列された多くの副葬品を見たりすることは、多くの言葉で語るより、子供たちの理解をより深く、豊かなものにする。子供たちは、当博物館を訪れ、様々な体験学習に参加することで、より実感的に古墳がつくられたころの様子について学ぶことができる。身近な地域の歴史から国土の歴史を考えるという点でも、さきたま史跡の博物館は大きな役割を果たしている。そして、その役割を一層果たすためには、教科書に掲載された資料を熟知し、体験学習の企画に反映させていくことが必要である。

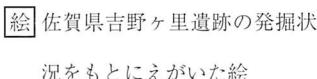
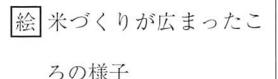
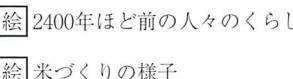
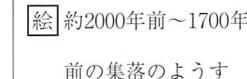
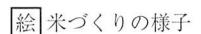
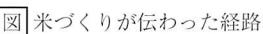
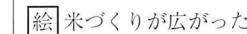
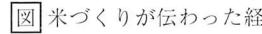
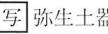
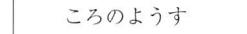
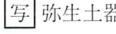
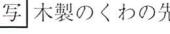
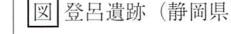
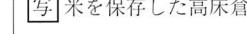
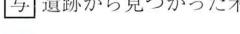
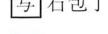
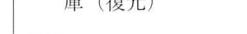
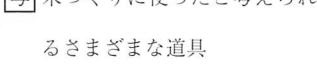
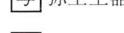
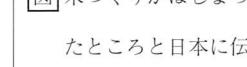
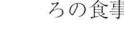
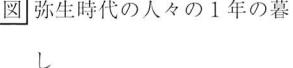
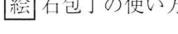
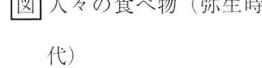
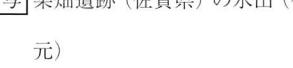
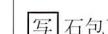
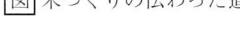
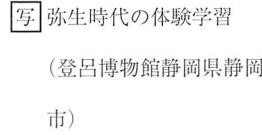
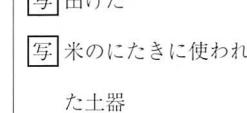
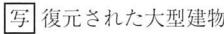
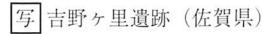
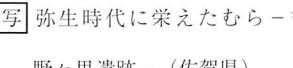
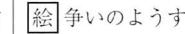
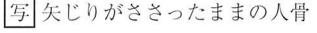
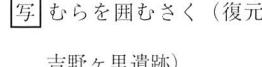
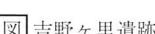
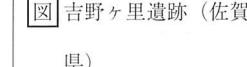
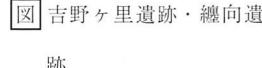
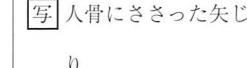
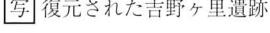
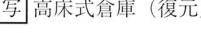
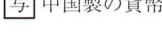
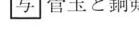
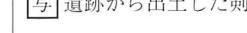
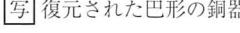
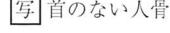
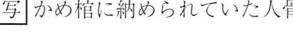
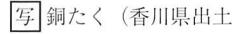
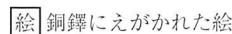
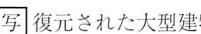
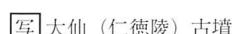
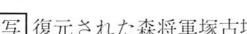
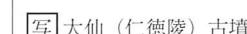
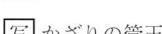
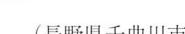
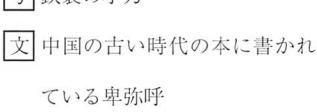
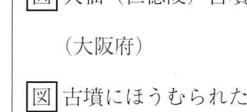
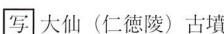
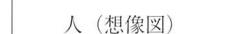
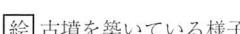
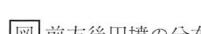
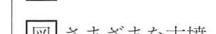
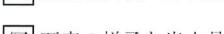
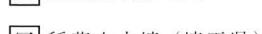
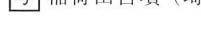
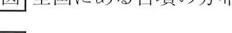
平成26年度に採択された教科書は、平成27年度から平成30年度の4年間に渡って子供たちが使用することとなる。本稿では、埼玉県内の小学校で採択された東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版の4社の教科書の掲載内容について整理する。県内の市町村立小学校の23の採択地区では、東京書籍が22、教育出版が1である<sup>(1)</sup>。国立・私立小学校6校では、東京書籍2、教育出版2、光村図書出版2である。特別支援学校14校では、東京書籍10、日本文教出版3、光村図書1である。県内では、東京書籍の教科書が最も多く採択されている。本稿では掲載された資料に焦点をしづって考察を進めることとする。

### 3 小学校社会科教科書掲載資料の分析

本稿では、県内採択4社の教科書に掲載されている資料を、写真（写）、地図・図版（図）、絵画（絵）、文章（文）、年表（年）に分類して表1にまとめた。資料の表記については、各教科書の表記に従った。また、「さまざま～」など一括掲載になっている資料については、可能な限り一つ一つの資料に分けた。

表1 主な教科書の掲載資料一覧

	東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版
狩 獵 ・ 採 集 の 生 活	<p>写 復元された大型掘立柱建物</p> <p>写 三内丸山遺跡</p> <p>写 復元された大型たて穴住居</p> <p>写 復元されたたて穴住居</p> <p>図 三内丸山遺跡の人々の生活</p> <p>写 土をほるための棒</p> <p>写 まつりに使った道具</p> <p>写 つり針</p> <p>写 針</p> <p>写 木の皮でつくった入れ物</p> <p>写 繩文土器</p> <p>写 静岡県浜松市の蜆塚貝塚</p> <p>絵 青森県三内丸山遺跡の発掘状況をもとにえがいた絵</p>	<p>写 三内丸山遺跡</p> <p>写 繩文土器</p> <p>写 矢じり</p> <p>写 土偶（青森県出土）</p> <p>図 人々の食べ物（縄文時代）</p> <p>絵 狩りや漁をしていたころの様子</p> <p>文 学芸員の小澤さんの話</p> <p>写 繩文土器</p> <p>絵 木の実やきのこが採れる季節</p> <p>絵 狩りをする季節</p> <p>図 縄文時代の人々の1年の暮らし</p> <p>写 縄文時代に栄えたむら – 三内丸山遺跡 – （青森県青森市）</p> <p>写 復元された大型掘立柱建物</p> <p>写 約30cmの土偶</p> <p>写 復元された大型竪穴住居と内部の模型</p> <p>写 黒曜石のナイフ</p> <p>写 木の皮で編んだふくろ</p> <p>写 ひすいの玉</p> <p>図 縄文時代の交流</p>	<p>絵 1万年ぐらい前の人々の様子</p> <p>写 加曾利貝塚（千葉県）から発掘されたもの</p> <p>写 復元されたクヌギやコナラなどの森</p> <p>写 復元された竪穴住居</p> <p>写 発掘された大昔の道具</p> <p>写 復元された竪穴住居の内部の様子</p> <p>文 学芸員の小澤さんの話</p> <p>写 繩文土器</p> <p>絵 木の実やきのこが採れる季節</p> <p>絵 狩りをする季節</p> <p>図 縄文時代の人々の1年の暮らし</p> <p>写 縄文時代に栄えたむら – 三内丸山遺跡 – （青森県青森市）</p> <p>写 復元された大型掘立柱建物</p> <p>写 約30cmの土偶</p> <p>写 復元された大型竪穴住居と内部の模型</p> <p>写 黒曜石のナイフ</p> <p>写 木の皮で編んだふくろ</p> <p>写 ひすいの玉</p> <p>図 縄文時代の交流</p>	<p>絵 2万年前のようす</p> <p>絵 約5500年前～4000年前の集落のようす</p> <p>写 三内丸山遺跡の復元模型と復元された建物</p> <p>写 さいばいしているくりの林</p> <p>写 竪穴住居群</p> <p>写 高床倉庫群</p> <p>写 大型住居</p> <p>写 大型掘立柱建物</p> <p>写 狩りや漁をしていたころの食事</p> <p>図 三内丸山遺跡（青森県）</p> <p>写 加曾利貝塚（千葉県）</p> <p>写 三内丸山遺跡で出土したかごと中に入っていたくるみ</p>

農耕の生活				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
国一統				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				
				

<p><b>写</b> ひすい製の勾玉・管玉</p> <p><b>写</b> 土器・鎌</p> <p><b>写</b> 朝顔形やつぼ形のはにわ</p> <p><b>写</b> 復元された石室</p> <p><b>写</b> 熊本県江田船山古墳から出土した鉄刀</p> <p><b>写</b> 埼玉県稻荷山古墳から出土した鉄劍</p> <p><b>文</b> ワカタケル大王と二つのはなれた地域の古墳</p> <p><b>写</b> 復元されたのはりがまと新しい土器</p> <p><b>年</b> 日本の国の成り立ち</p> <p><b>文</b> 神話に書かれた国の成り立ち</p> <p><b>写</b> 西谷3号墳（島根県出雲市）の復元模型</p> <p><b>図</b> 四すみがつき出た古墳の分布</p> <p><b>写</b> 甲山古墳（滋賀県野洲市）</p> <p><b>写</b> 岩屋古墳（千葉県栄町）</p> <p><b>写</b> 森將軍塚古墳（長野県千曲川市）</p>	<p><b>絵</b> 古墳づくりの様子</p>	<p><b>図</b> 大和地方</p> <p><b>写</b> 稲荷山古墳（埼玉県）から出土した文字を刻んだ鉄劍</p> <p><b>写</b> 大陸から伝わった土器</p> <p><b>写</b> 高松塚古墳（奈良県）の壁画にえがかれた女性</p> <p><b>写</b> 藤ノ木古墳（奈良県）から出土したくつ（復元）</p> <p><b>文</b> 神話「ヤマトタケルノミコト」の物語</p> <p><b>写</b> 古市古墳群</p> <p><b>写</b> 黒塚で発掘された石室の模型</p>	<p><b>写</b> 高松塚古墳（奈良県明日香村）のかべにえがかれた女性</p> <p><b>写</b> 藤ノ木古墳で出土したくつ（復元）</p> <p><b>図</b> 高松塚古墳（奈良県）藤ノ木古墳（奈良県）</p> <p><b>写</b> 鉄のよろい・かぶと・刀</p> <p><b>写</b> 渡来人が伝えた新しい土器</p> <p><b>文</b> ヤマトタケルノミコト</p>
--	--------------------------	---	---

学習内容「狩猟・採集の生活」では、復元された建物の写真、出土した道具類、食料の資料など衣食住の資料を主に掲載している。当時の人々の一年間の生活を捉えることができる資料としていわゆる縄文カレンダーを合わせて掲載し、児童が当時の生活について具体的に想像できるように配慮されている。学習内容「農耕の生活」では、水田遺構をもつ遺跡の写真や農耕に使われた道具などの出土遺物を主に掲載している。また、当時の生活を描いた絵を掲載し、指導者のもとで集団作業を行う生活のようすを児童が捉えられるように配慮されている。

学習内容「国土の統一」では、争いが生じ、力のある豪族が現れ、やがて大和政権によって国土が統一されていくという流れがわかる資料が掲載されている。その過程において、大陸から渡来人がやってきて様々なものや技術を伝えたことを児童が理解できるよう配慮されている。当館に展示されている国宝「金錯銘鉄劍」や復元された將軍山古墳の石室は、強大な豪族の力を知る手がかりであるとともに、大和朝廷の勢力拡大が分かる資料として扱われている。

つぎに、当博物館と関わりの深い古墳時代を扱った学習内容「国土の統一」について、さらにくわしく分類した。教科書の掲載資料のねらいを考察し、そのねらいごとに資料を分類・整理し表2にまとめた。また、そのねらいと関わりの深い当博物館の展示資料を抽出し、合わせて表に示した。

表2 資料掲載の意義とさきたま史跡の博物館展示資料

	教科書に掲載されている資料	資料掲載のねらい	さきたま史跡の博物館に展示されている資料
生活の変化	<p>写 吉野ケ里遺跡</p> <p>写 むらを囲むさくなどの復元品</p> <p>写 矢じりがささったままの人骨 ・首のない人骨など</p> <p>写 管玉や銅劍など豪族の力を示すもの</p> <p>文 中国の古い時代の本に書かれている卑弥呼の記述</p>	米づくりの広がりによって、むらとむらとの間で争いが生じたこと、むらの指導者が強い力をもち、豪族となっていましたこと、豪族の中には、まわりのむらを従えてくにをつくり王と呼ばれたことなどを児童に理解させる。	○稻荷山古墳から出土した武器類・馬具類・祭祀の道具など ○形象埴輪
大陸とのつながり	<p>写 銅鐸・銅劍・鉄のよろい・かぶと・刀などの金属製品</p> <p>写 南方の貝でつくった装飾品</p> <p>写 かざりの管玉やガラス玉などの装飾品</p> <p>写 高松塚古墳の壁画や藤ノ木古墳から出土したくつなど、大陸とのつながりを示すもの</p> <p>写 須恵器など渡来人が伝えた新しい土器</p>	朝鮮半島から日本列島にわたって住み着いた渡来人が大勢いたこと、鉄器、青銅器、麻や絹、南方の貝で作った装飾品など進んだ技術や文化が日本にもたらされたことを児童に理解させる。 大和朝廷が、大陸からの文化を積極的に取り入れたことを児童に理解させる。	○国宝「三環鏡」「鈴杏葉」などの銅製の馬具 ○国宝「大刀」「挂甲」などの鉄製品 ○将軍山古墳出土のガラス玉 ○瓦塚古墳や奥の山古墳、中の山古墳の須恵器
豪族や王の出現	<p>写 大仙（仁徳陵）古墳</p> <p>絵 古墳を築いている様子</p> <p>図 前方後円墳の構造図や復元された石室</p> <p>写 ひすい製の勾玉・管玉などの副葬品</p> <p>写 円筒はにわや形象はにわ</p>	大きな力をもった豪族は、技術者や多くの人々を指図して大きな古墳を築いたこと、九州地方から東北地方までの全国に古墳がつくられ、中でも前方後円墳には古いものや大きいものがたくさんあることを児童に理解させる。	○稻荷山古墳・将軍山古墳などの前方後円墳 ○丸墓山や小円墳などの円墳 ○国宝「勾玉」「画文帶環状乳神獸鏡」「龍文透彫帶金具」などの副葬品 ○稻荷山古墳や瓦塚古墳の埴輪 ○将軍山古墳展示館の石室 ○馬形埴輪と馬胄・旗ざお金具
国土の統一	<p>写 熊本県江田船山古墳から出土した鉄刀</p> <p>写 埼玉県稻荷山古墳から出土した鉄劍</p> <p>文 ワカタケル大王と二つのはなれた地域の古墳</p> <p>図 前方後円墳の分布</p> <p>年 日本の国の成り立ち</p> <p>文 神話に書かれた国の成り立ち</p>	近畿地方には大きな力をもった豪族が早くから現れ、その中心となった王は大王と呼ばれたこと、5～6世紀ごろには九州から東北南部までの豪族や王を従えるようになったことを児童に理解させる。	○国宝「金錯銘鉄劍」 ○関東地方の古墳の分布図 ○水鳥形埴輪

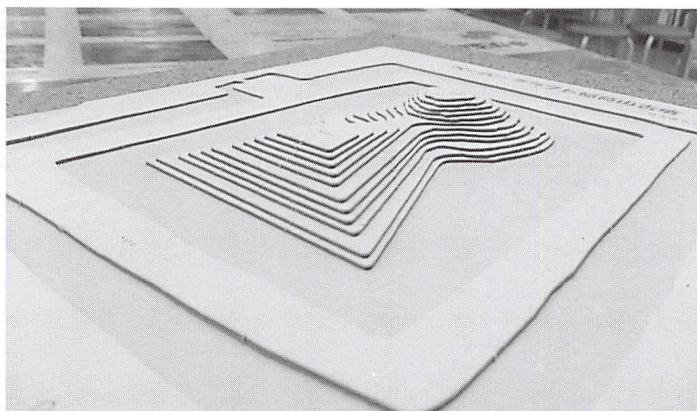
学習内容「国土の統一」に関する教科書掲載資料は、その掲載のねらいから4つに分類することができると言える。「生活の変化」「大陸とのつながり」「豪族や王の出現」「国土の統一」である。この表をもとに、子供たちの博物館での学習場面について考えてみる。例えば、展示室での観覧の場面について考える。当館の展示は古墳ごとに展示物が配置され、国宝展示室入り口から左回りに進むとおよそ時間軸に沿って観覧することができるようになっている。博物館を訪れた子供たちは、当館の配置に沿って観覧することで、一定の学習成果を得ることができる。しかし、教科書に掲載されている学習内容の順序とその掲載のねらいを参考に、学習内容ごとに展示を観覧することで、一層学習効果を高めることができる。そのことを、予め引率する学校職員に資料として提供することで、子供たちの学習効果は一層を高まると考える。

次に、現在行われている当館の体験学習事業について、教科書資料との関連を考える。

#### 4 さきたま史跡の博物館における体験学習と教科書掲載資料の関わり

さきたま史跡の博物館では、これまでにも博学連携を意識した様々な体験学習を行ってきており。それらの体験学習を、教科書に掲載されている学習内容との関係から分類すると、補充と発展の二つに分けて考えることができる。

教科書の内容を補充する体験学習とは、例えば「ペーパークラフト稲荷山古墳」づくりが挙げられる。第6学年の児童は、教科書で古墳について学び、その代表的な形としての「前方後円墳」を知る。また、前方後円墳の全国への分布を調べることで、大和政権が勢力を拡大していくことを理解する。しかし、6年生の児童であっても、前方後円墳を教科書の掲載写真のみから実感的に捉えることは難しい。また、社会科見学などで実際の古墳を見る際にも、どこを見ればよいのか、現地でポイントをつかんで見学するのはなかなか難しい。そこで、古墳の見学前に、ペーパークラフトで1/1000のサイズの稲荷山古墳をつくることは、学習効果を一層高める補充的な学習活動として有効である。児童は、一段一段の古墳のパーツを組み上げることで、その高さを実感する。何度も繰り返して前方部と後円部の形に触れることで、その特徴を認識する。こうして、前方後円墳の形を立体的なイメージとして描けるようになった上で、実際の古墳を見学すると、高さや長さ、くびれている部分や張り出している部分などの形をよく見ることが可能となる。これは、教科書の学習内容をよりよく理解するという点で、補充的な学習であるといえる。



ペーパークラフト稲荷山古墳

縮尺 1/1000

一段の紙の厚みは 1 mm である。

1 mm は実際の 1 m を表している。

現在、特に解説の資料はつけられていないが、みどころを示すことで、大変よい教材となる可能性がある。

教科書の内容を発展させた体験学習とは、例えば「夏休み子供講座『キミも古墳博士』」で行っている「拓本取り」や「土器洗い」が挙げられる。次期学習指導要領の改訂において、能動的な学びとして期待されるアクティブラーニングの主な学習方法として、問題解決的な学習が挙げられる。その学習デザインの根幹となる考え方の一つは、学習者に専門分野の研究者の思考を追体験をさせるということである。歴史の学習における古代の内容の多くは、考古学を基礎学問として成り立っている。考古学とは、人類が残した遺物・遺構などの痕跡から人類の活動や変化を知る学問であるといえる。本物の遺物に触れ、古代の人々の活動の痕跡をよく見て考えるという方法を追体験することは、児童にとって「物を見て考える」とはどういうことなのかを考える機会となる。教科書に掲載された資料による学習は考古学の成果を基にしているが、考古学の研究方法の追体験は、学習者の思考方法を広げるという意味において発展的な学習であるといえる。

### 拓本づくり

夏休み子供講座に参加した子供たちは、倉澤学芸員の指導のもと、拓本づくりを行った。拓本を探ることで埴輪の破片をよりよく見ることができ、そこに浮き出た文様は何であるのか、興味をもって観察することができた。



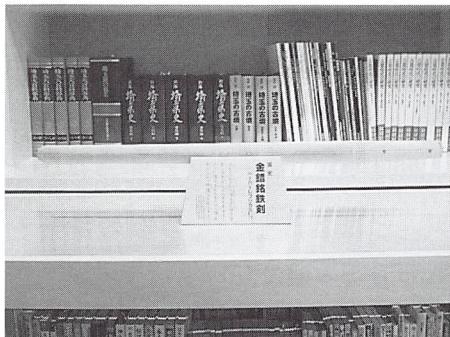
### 土器洗い

土器洗い体験では、子供たちは、ブラシを使って、埴輪のパーツについた土を一つ一つ丁寧に落とした。土を落としながら、文様の違いや、粘土の色の違いなどに気づくことができた。物をよく見て考えることを通して、考古学的な思考の基本について体験することができた。

現在当館で行われている補充的な体験学習と発展手的な体験学習の実践例を挙げる。

### 【補充的な学習活動の実践例】

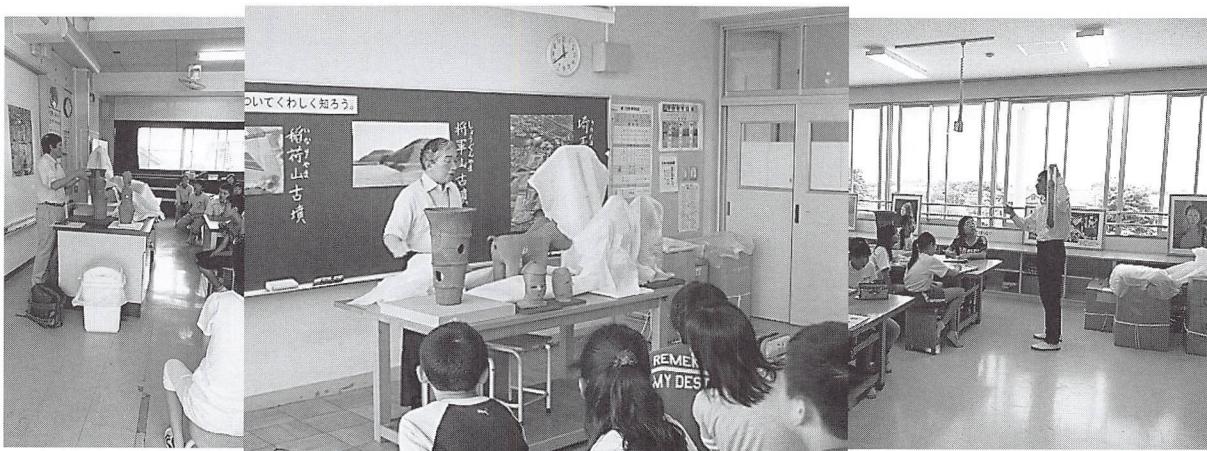
#### ○金錯銘鉄剣のレプリカづくり



金錯銘鉄剣のペーパーレプリカ

当館では、金錯銘鉄剣のペーパーレプリカを販売している。このレプリカを作ることで、児童は、鉄剣の大きさや形を理解したり、刻まれている文字をよく見たりすることができる。また、復元品のレプリカであるため、鉄剣がつくられた当時の様子がわかるようになっている。教科書掲載の写真と並べることで、この鉄剣を所持していた当時の豪族の姿をイメージしやすくなる点で補充的な学習のための教材であるといえる。

#### ○出前授業「なるほど古墳時代」（展開部）



毎年6月から7月にかけて行っている出前授業「なるほど古墳時代」は、学芸員が直接子どもたちに話をしたり、質問に答えたりすること、本物の遺物を間近で見たり、さわったりできることが大きな柱となっている。また、中心となる教材としては、教科書に掲載されている遺物の中から、古墳時代を最も象徴すると考えられる埴輪を用いている。

この授業の展開部（中心的な学習活動）においては、児童が埴輪を観察し、その埴輪が何を表現しているのか、なぜ古墳に立てられたのかということを、埴輪を観察しながら考える。本稿で分析した4社の教科書には、埴輪の写真が掲載されている。しかし、埴輪についてはわからないことも多く、それが何のために作られたのか、そもそも埴輪とは何かということは記載されていない。そこで、実際に埴輪を見ながら「埴輪とは何か」ということを考える学芸員の姿を見てもらうことで、児童一人ひとりが埴輪は何かを考える機会としている。また、水鳥の埴輪について考えるときには、どの教科書にも掲載されている「ヤマトタケル」の逸話に触れるなど、教科書と観察の往還の中で、埴輪について実感的に捉えることができるよう工夫している。これは、教科書のズッキッシュな知識を、生きて働く知識として捉えられるように仕組んだ補充的な学習である。

#### ○さきたま秋祭り「館内オリエンテーリング」



当館では、毎年11月14日の県民の日に合わせて「さきたま秋祭り」を開催している。その中のイベントの一つとして、問題を解きながら館内を巡る「館内オリエンテーリング」を行っている。このイベントには多くの子供たちが参加するため、子供たちにぜひ見て欲しい展示物を選んで、問題を作成している。

例えば、金錯銘鉄剣や馬冑など、古墳の副葬品の中から、代表的な物を選んだ。教科書には多くの副葬品の写真が掲載されており、古墳に葬られた豪族の力の大きさがわかるようになっている。ここでは、実際の副葬品を見ることで、豪族の力の大きさを実感的に捉えられるようになることがねらいである。これは、実物を間近に見ることで、教科書の学習内容を補う補充的な学習であるといえる。

かんない  
館内オリエンテーリング

かいどうよし  
解答用紙

博物館マップ

受付

8

トイレ

5

3

もんだいのこたえは、それぞれの  
すうじがかかれただしょにあります。

4

2

1

7

6

5

3

2

1

8

もんだいはうらに  
あります。

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

## 館内オリエンテーリングの問題用紙

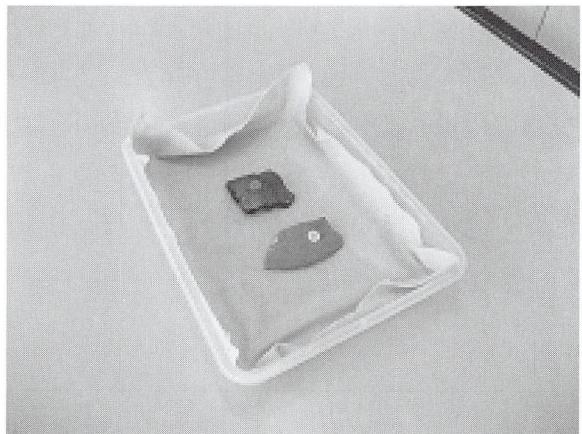
## 【発展的な学習活動の実践例】

### ○出前授業「なるほど古墳時代」（導入部）

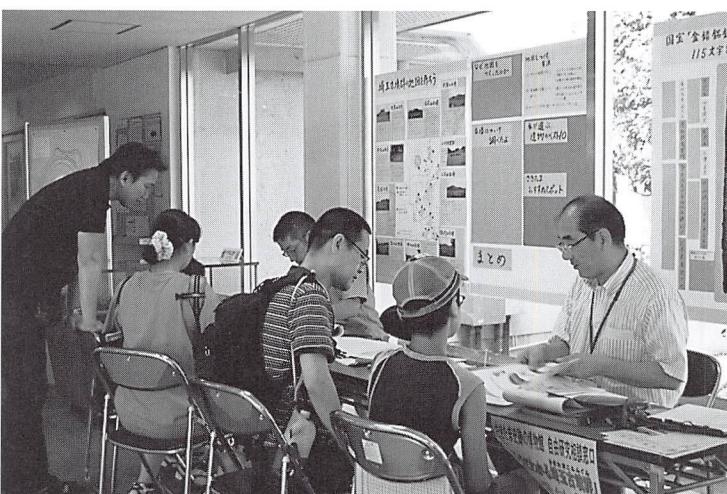


児童は、自らの考え方についての評価を受けることで、物を見て考えることはどういうことなのかを理解することができる。導入で体験した考え方は、展開部で埴輪を観察する際にも繰り返し用いるよう授業を構成している。これは、歴史学習のはじめにおいて、歴史の学習の仕方の一つを身に着けるための発展的な学習である。

出前授業「なるほど古墳時代」の導入部（授業の冒頭）では、土器片を比較して、どちらが古いかを考える活動を行っている。児童は、縄文土器と須恵器とを比べ、教科書から得た知識を使ってグループで話し合いながら思考を深めていく。授業者は、各グループを机間指導しながら、児童の主な発言を収集し、全体の話し合いの場面で取り上げて評価する。



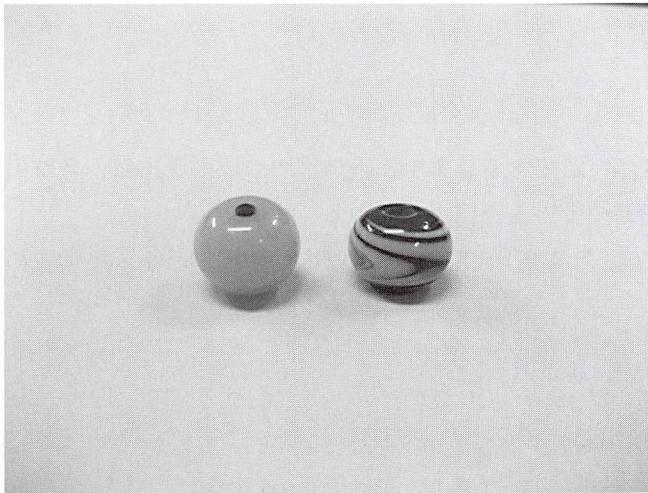
### ○夏休み自由研究相談窓口



ことで情報を集め、地図上に知識を構成する仕組みになっている。自由研究は本来楽しみながら行う学習であり、楽しむということを念頭に置いて企画されたこの取組例は、児童の能動的な学習を促すことをねらっている。これは、児童の学習意欲を高め、知識を地図上に構成することで、关心・意欲と知識・理解の両面を伸ばす発展的な学習である。

夏休み自由研究相談窓口は、平成26年度より7月の終わりから8月の初めの3日間程度行っている事業である。夏休み中に行う自由研究の一つとして、埼玉古墳群の研究を提案している。中でも取組例の一つとして例示している「埼玉古墳群の地図をつくろう」では、さきたま古墳公園を楽しく散策し、博物館の展示物を観覧する

## ○ガラス玉づくり



当館では、平成25年度より毎年2月に、「ガラス玉づくり」の体験学習を行っている。ガラス玉は教科書に写真が掲載されており、古墳の代表的な副葬品として、豪族の力を示す資料となっている。児童は、千年以上前の人々が、ガラスを使っていたことに強い興味を示す。

この体験学習では、ガラスが大陸から伝わってきたことを知らせる。教科書の学習内容である大陸とのつながりについて、補充的な学習を行うことができる。

続けて、古代から行われてきたとされる巻きつけの技法で、ガラス玉を作成する。児童は、ガラスをどのように加工したのか実感として理解するとともに、古代のガラスづくりに興味を広げていく。これは、児童の学習意欲を高め、古墳が築かれたころの人々のくらしへの興味を高めていく発展的な学習であるといえる。

## 5 さきたま史跡の博物館における博学連携の取組の展望

当館でこれまでに行ってきた体験学習は、教科書に掲載された資料との関わりも強く、小・中学校で行われている社会科の授業の補充・発展として高い学習効果があると考える。埼玉県を特徴づける史跡でもあり、埼玉県の郷土の学習を行う上でも教育効果が期待される。しかし、これまで、社会科の学習内容のどの部分とどのように関わっていくのかという系統性を意識した開発の面が弱かった。学校教育との相互の位置関係を再度整理し、学習内容面での具体的な関連を示していくことが必要であると考える。また、現在、さきたま史跡の博物館では、学校団体に対して、展示室や古墳群を巡って解説することは行っていない。引率の学校職員が、それぞれの展示物や古墳などの特徴を理解し、その指導のもとで児童が見学できるようにすることが望ましい。そのための支援は、博物館の使命であると考える。本年度、学習支援の事業として、教員を対象とした「小・中学校の先生必見！博物館活用講座『授業で使える考古学』」を開講した。この取組は、過去にもなされていたことがあり<sup>(2)</sup>、その流れを引き継ぐものである。

## 6 おわりに

本稿では、教科書に掲載されている資料を切り口として、博物館の役割について考察してきた。博物館を訪れる子供たちに対して、博物館職員と引率の学校職員とがそれぞれの職の特性を生かして働きかけていくことで、子供たちの学習効果は高まっていく。博物館の役割の1つは、引率の学校職員がポイントをつかんで児童の指導に当たれるよう、事前に資料を用意し、博物館での学習方法のデザインを提案していくところにあると考える。その際、子供たちにとって最も身近な教材である教科書に掲載されている資料は、博物館と学校のそれぞれの共通の土

台として、検討の手がかりとなる。今後も、機会を捉え、教科書掲載の資料について、整理・分析を続けていくことが必要である。

### 【註】

- (1) 平成27年度現在における埼玉県の教科書採択地区は、23である。第1採択地区のさいたま市は、教育出版の教科書を採択している。他22地区は、東京書籍の教科書を採択している。
- (2) 平成12年度に、博学連携の取組として「さきたまアカデミア」が実施され、県内の博物館、小・中学校の職員が集まり、意見交換がなされた。

### 【参考文献】

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 東洋館出版社 平成20年8月31日  
北俊夫・小原友行・吉田伸之他著 『新編新しい社会6年上』 東京書籍 平成27年2月10日  
有田和正・石弘光監修 『小学社会6上』 教育出版 平成27年1月20日  
石毛直道他著 『社会6』 光村図書出版 平成27年2月5日  
池野範男・的場正美・安野功他著 『小学社会6年上』 日本文教出版 平成27年2月9日  
埼玉県立さきたま史跡の博物館 『調査研究報告第14号』 平成13年3月  
埼玉県立さきたま史跡の博物館 『ガイドブックさきたま』 平成27年1月